国際監査・保証基準審議会 (IAASB) 会議報告 (第58回会議)

前・国際監査・保証基準審議会メンバー せきぐち ともかず 関口 智和

国際監査・保証基準審議会 (IAASB: International Auditing and Assurance Standards Board 「アイ・ダブル・エー・エス・ビー」) は国際的な監査及び保証基準を開発している。今回の会議 (第58回¹⁾) は、2014年12月1日から5日にかけてニューヨーク (米国) において開催された。日本からは、筆者がメンバー、日本公認会計士協会の住田清芽常務理事 (2015年度よりIAASBメンバーに就任) がテクニカル・アドバイザーとして出席した。本稿において、会議の概要について紹介したい。

1 公表物の承認

(1) ISA720「その他の記載内容に関連する監査人の責任」

IAASBは、財務諸表外の情報が充実する等、取り巻く環境が変化していることを踏まえ、現行のISA720「監査した財務諸表が含まれる開示書類におけるその他の記載内容に関連する監査人の責任」の見直しに向けた検討を行っており、これまで、2012年11月に同基準の見直しに関する公開草案を公表したほか、2014年4月に再公開草案を公表している。

今回の会議では、再公開草案に寄せられたコメントや2014年10月に開催された電話会議による審議を踏まえ、最終化に向けた審議が行われた。審議の結果、ISA720の改訂が承認された。本基準の詳細については、別稿「解説 国際監査・保証基準審議会 (IAASB) による監査報告書の

改訂等」(29頁) を参照いただきたい。

(2) 監査報告 (ISA800シリーズの検討)

IAASBは、ISA800「特別な考慮事項—特別目的の財務報告の枠組みに準拠して作成された財務諸表に対する監査」、ISA805「特別な考慮事項—個別の財務表又は財務諸表項目等に対する監査」、ISA810「要約財務諸表に対する報告業務」についても、完全な一組の一般目的の財務諸表に対する監査報告書に関する要求事項 (ISA701「独立監査人の監査報告書における監査上の主要な事項のコミュニケーション」を含む。) との整合性を図る観点から部分的な改訂を行うため、2014年6月会議から、見直しの検討を行っている。

今回の会議では、上記のうち、ISA800、ISA805の改訂について公開草案化に向けた審議が行われた。審議の結果、両基準について公開草

案 (コメント期限: 2015年4月) とすることが承認された。また、ISA810については、前回の会議において、現行基準が実務でどのように適用されているかについて十分な調査を行った上で議論を進めることとされており、今回の会議では、各国基準設定主体から入手したインプットをベースとしてプロジェクトの進め方について議論が行われた。IAASBは、今回の会議で示された意見を踏まえ、今後、検討を継続していくことを予定している。

2 論点の検討

(1) 財務諸表の注記情報等の監査

IAASBは、近年における財務報告に関する規制や基準が財務諸表の注記情報の監査に与える影響を踏まえ、2010年以降、開示情報の監査について、ISAの改訂や個別の開示情報に関するガイダンスの公表を行うべき

かについて検討を続けてきた。IAASBは、当該検討を踏まえ、2014年5月に、財務諸表の注記情報等の監査に関連する監査基準の見直しに関する公開草案「財務諸表監査における開示への対応」（コメント期限：2014年9月）を公表している。同公開草案には、70通のコメントレターが寄せられた。

今回の会議では、公開草案に寄せられたコメントを踏まえた作業グループにおける検討結果を踏まえ、次の点について審議が行われた。

- 定性的な開示情報について、監査計画の策定における重要性の予備的決定について新たな要求事項を設けるべきか（ISA320「監査の計画及び実施における重要性」）
- 表示と開示に係るアサーションを、監査対象期間の取引種類と会計事象に係るアサーション及び期末の勘定残高に係るアサーションに統合すべきか（ISA315「企業及び企業環境の理解を通じた重要な虚偽表示リスクの識別と評価」）
- 財務諸表において表示された情報が目的適合性、信頼性及び比較可能性を有し、かつ理解可能なものであるかどうかについての評価について追加的な要求事項の記載が必要か（ISA700「財務諸表に対する意見の形成と監査報告」）

IAASBは、今回の会議で示された意見を踏まえ、今後、検討を継続していくことを予定している。

(2) 品質管理基準

IAASBは、国際品質管理基準（ISQC）1「財務諸表の監査及びレビュー並びにその他の保証及び関連サービス業務を行う事務所の品質管理」の改訂に関する検討を開始している。今回の会議では、作業グルー

プから、審査担当者、是正（remediation）、外部委託とシェアードサービスセンターを主な検討対象とすべきという提案が示され、それぞれについて、作業グループからの提案が示された上で、議論が行われた。IAASBは、今回の会議で示された意見を踏まえ、今後、検討を継続していくことを予定している。

(3) その他

今回の会議では、上記のほか、主に以下の点について審議が行われた。

- グループ親会社及びグループ監査人が所在する国とグループの営業、会計記録等が所在する国が異なる状況における監査（通称、「レター・ボックス監査」という。）へのISA600「グループ監査」の適用
- 統合報告に関する保証業務の基準開発への対応

<注>

- 1 電話会議による会議の開催は除く。